

知事記者会見の概要

日 時：令和2年5月26日(火) 10:00～10:20

場 所：502会議室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：15名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

(1) 新型コロナウイルス感染症に関する県内農林水産業への支援策について

フリー質問

(1) 新型コロナウイルス感染症への県の対応について

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。新型コロナウイルス感染症でありますけれども、山形県は22日間連続で感染確認ゼロとなりました。そして本県は、5月14日に緊急事態宣言が解除されたわけなのですけれども、昨日、全国の都道府県が緊急事態宣言解除となりました。山形県の今後の対応につきましては、本日、危機対策本部員会議を開きまして、その中で決定する予定でございます。決定しましたら、皆さんに私からお話し申し上げますのでよろしくお願いいたします。

さて、県内では、これから一週間、高い気温が続くという予報が出されております。この時期ですと、体が暑さに慣れていない時期でもありますし、県民の皆様には、熱中症にならないように、くれぐれもご注意をお願いしたいと思います。

特に今年はずすね、感染予防のためにも「新しい生活様式」を定着させることが大事だということで、皆さん、マスクを着用されております。それで、このマスクを着用しておりますと暑さがこもって熱中症にかかりやすいと言われておりますので、くれぐれもご注意いただきたいと思います。例年よりもずすね、まめに水分を補給していただいたり、また屋内にあっては、エアコンなどで適切な温度管理、また屋外にありましては帽子などで日光をさえぎる、そういった対策などをしっかりとっていただいて、熱中症にならないようにくれぐれもご注意いただきたいと思います。

それで、農作業ですずね。本格化しておりますし、あと屋外で工事現場で作業しておられる方々もいらっしゃいます。そういったところでも、できる限りマスク着用というふうに言われているところでありますので、今年はマスク着用、そこが大事なところでありますので、これから暑さを迎えますので無理のない作業計画のもとで、定期的な水分補給、それから涼しい場所で休憩するなど、今まで以上に心がけていただきたいと思います。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

YTSの荒木と申します。よろしくお願ひします。新型コロナウイルス感染症に関する県内農林水産業への支援策についてお尋ねします。

県内の観光さくらんぼ園の営業自粛などが次々と決定したほか、花きの需要の減少や、牛肉価格の急落など、県内各地で影響が出ております。

農家の大幅な収入減少が懸念されておりました、県による支援が喫緊の課題と考えられますが、現時点でどのような支援策を検討されているのかお伺ひしたいと思います。

知事

はい、わかりました。新型コロナウイルス感染症の県内農林水産業への影響ということ

であります。インバウンドをはじめとする観光需要が減少いたしました。また、各種イベントもですね、中止・縮小ということになっておりまして、牛肉や花き、高価格帯の果物や水産物など、大幅な価格低下や販売不振などの影響が生じているところであります。

県ではこれまで、相談窓口を設置したり、新型コロナの拡大に伴って生じた、急激な資金繰りの悪化に対する県単独の無利子資金の発動や、「山形県産農林水産物消費拡大キャンペーン」の実施など、急激な消費の落ち込みに対する県産花きや県産牛肉、そしてさくらんぼなどの消費拡大に向けて、応急的な対策を講じてきているところであります。

先週の21日には、山形県の農協中央会や山形県農業法人協会から、さくらんぼの緊急的な価格安定対策等を求める要望をいただいたところであります。こうした生産現場の声もしっかりとお聞きをしながら、再生産を可能にする、必要な支援策を緊急に講じていくことが重要だと考えております。

県としましては、花きや、肉用牛、さくらんぼ、そしてタイをはじめとする高価格帯の魚など、新型コロナの影響を受けている本県の生産者の方々に必要な支援が行き届くように、農業者の皆様から強い要望がありました、さくらんぼの緊急的な価格安定、そして値下がりの激しい牛肉や花きの再生産に向けた支援、また漁業者の収益確保に向けた支援などについて対策を早急に取りまとめまして、市町村やJA、漁協など関係団体と連携して、しっかりと対応してまいります。

あわせて、先日の知事会で、「政府の価格安定制度のない『さくらんぼ』をはじめとする果実の緊急価格安定対策を講じること」と、それから、業務用米が余っているというようなことでありましたので、「海外に対する支援米などとして市場隔離するなど、主食用米の価格安定に向けた抜本的な対策を講じること」ということを政府に要望するように申し上げたところであります。このように、あらゆる機会をとらえて、必要な対策がタイムリーにとられるように政府に強く要望してまいります。

先ほどの県内の対策でございますけれども、6月議会も間近となってきておりますので、そういうことに向けてですね、予算というようなことでも検討中ということでございます。

☆フリー質問

記者

TUYの鈴木です。今日午後の会議で正式に決定するという話が冒頭にありましたが、昨日、安倍総理が全国緊急事態宣言を解除されたことに対する知事の所感と、それから昨日、県の専門家の意見交換で、専門家からは東北6県・新潟は解除してもいいのではないかというお話と、首都圏や北海道はあと2〜3週間はちょっと慎重に対応を見るべきではないかという意見が出ましたが、これを受けての知事の所感、2点お願いできますか。

知事

はい、まずは最初のほうでありますけれども、もう本当に、山形県民もそうであります

けれども、国民がですね、本当に自粛ということでもう1か月半という長きにわたって、しっかりと対策に協力したといえますか、日本国民というのは本当に真面目にしっかりと取り組むというところがありますので、諸外国に比べてですね、感染率が非常に低いというようなことも聞いておりますし、10万人に対しての0.5人というのはもう外国では考えられないほどの厳しい基準なのだそうですね、それは昨日の医療専門家会議でもお聞きをしました。そういった厳しい基準をもって考えておられて、それをクリアしたりまたそれに近づいているというようなことで解除されたということでもありますので、できればもっとその0.5をクリアできれば良かったのだらうとは思ってはおりますけれど、その基準そのものが厳しいということでもありますので、概ねですね、そのようになさったということで、やはり感染予防と経済回復をですね、両立するということに向けてしっかりと一歩を進められたのかなというふうに思ったところでございます。

もう1点のほうの、東北6県・新潟も含めてということになるのでしょうか、そのことについては昨日お聞きをしまして、いずれの専門家の先生もですね、それは賛成といえますか、問題ないというようなことでございましたので、そういったことも踏まえて、今日の本部員会議で協議、決定してまいりたいと考えております。

記者

飲食店についてちょっとお伺いしたかったのですが、県内感染者も落ち着いてきて、緊急事態宣言も解除されているということで、「新しい生活様式」を守ったうえで飲食店とか外食産業の方々、県民の方々に外食をするように、知事から発信するお考えなんていうのはございますでしょうか。

知事

そうですね、今のところは、県民の皆さんの生活そのものが、まず「新しい生活様式」というものをしっかりと取り入れてくださるというのが大事だと思っておりますし、その県民の皆さんが出かけていく先々で、その一つに飲食店もあるかと思っておりますけれど、飲食店でもやはりその3密を避ける対策ですとか、「新しい生活様式」に沿った対策をですね、しっかり取っていただいて、それでお客様をお迎えしていただきたいと思っております。まず今県内は大変落ち着いているという状況だと思っておりますので、お買い物クーポンとか、宿泊クーポンなんかももう5万枚ずつお出ししております。県民の皆様にもしっかりと3密対策とかマスク着用といったことをしていただきながら、人と人との距離を、身体的距離をしっかりと取るということもしていただきながら、できる限り皆さんはお出かけになっても、もう県内は大丈夫ですよというようなことを申し上げたいというふうに思います。

記者

特にクーポンとか、この場で消費しましょうみたいな呼びかけることはお考えではない

ということですか。

知事

そうですね、お買物クーポン5万枚を発行しておりますけれども、販売が非常に好調だということですので、たくさんの方の皆さんにやはりご利用いただきたいと思っておりますし、あと、県民泊まって応援キャンペーンの、そちらのクーポンですね、そちらのほうはまだ枚数があるというふう聞いておりますので、ぜひ県民の皆さん、大変お得なクーポンでございますので、ご利用いただいて、県内の経済活性化にぜひ貢献していただきたいと思っております。

記者

日本経済新聞の浅山と申します。学校がいよいよ再開ということなんですけれども、第二波、第三波の時にですね、また恐らく休校ということになる可能性もあるかと思っております。

知事はこの間の何の会合だったか、県立高校がですね、非常にいわゆるICT化が遅れていて、リモートの学習ができないという環境を自らお話をされていましたが、次に備えてですね、県立高校にそういうものを徹底して導入するといったお考えはありませんでしょうか。

知事

はい、もちろんですね、こういった機会をやっぱりチャンスというふうに捉えて、できる限りやはりそれは進めるべきだと思っておりますので、教育委員会のほうには申し上げたりもしておりますし、今、検討中なんだと思っております。

新型コロナウイルス感染症がですね、まだ国内でも、世界的にも終息はしておりません。第二波、第三波がいつ来るかわからないというような状況でありますので、しっかりと医療体制、検査体制というものを強化しながらですね、そして第二波、第三波の波が来た時にも授業対応できるように、オンライン化、機材も含めて、できる限りのことをしていく必要があるかと思っております。

その機材が揃うかどうかとか、いろんなことがあるようでありますけれども、私としては、やはりこういう機会にできる限り進めていければというふうに思っております。

記者

今の段階では、全県立学校にですね、これだけの回線を入れるとかという具体的なものはまだないわけですね。

知事

そうですね、その内容的なところまでは。

記者

まだ検討中と。

知事

はい。今どのぐらい普及していて、どのぐらい必要で、それがどのぐらいの機材が必要で、どのぐらいの予算というようなことは、ちょっと今、まだ私のところには上がってきていないということです。

ただ、本当に教育もそうでありまして、働き方もそうでありまして、こういった機会というものをしっかりと捉えてですね、できるものからどんどん進める、財政的なこともございますけれども、やはりそういったことがアフターコロナと言いますか、コロナが終息、あるいは治療薬ができた後の山形県がしっかり進化をしていくということに繋がると思っていますので、前向きに進めていければと思っております。

記者

細かい話ですけど、今の知事の「しんか」というのは、深まるほうの「深化」なのか、進むほうの「進化」なのか。

知事

進むほうです、前向きに。

記者

それで、今、いわゆる教育体制も仕事の働き方もということでしたけど、県庁のほうで、在宅とか、あといわゆる2部構成で組織を分けて働くとかですね、あまりやっていらっしゃるようには見えなかったんですが、何か次に向けて、特に在宅の場合はいろんな回線の状況とかですね、そういうものも必要になると思うのですが、そこは何かお考えの点はありますでしょうか。

知事

そうですね、今、みらい企画創造部のほうで検討中でありましてけれども、やはり容量とかね、いろんなことがあったり、また機材の関係と、それから容量ですね。あと、その機材もですね、内容的な話になってくるかと思っておりますけれども、セキュリティのしっかりした県庁だけの枠の中での使い方と、あと、インターネットにもう繋いでしまうというようなやり方とか、いろいろあるかと思っておりますので、セキュリティの問題も本当に出てきますので、そこはやはりきっちりと検討しながらだと思っておりますけれども、コロナがどんどんと急速に拡大していた時期には、もうそれどころではないといったところもございました。

ただ、時差出勤とかですね、そういうところには妊婦さんもちょっと拡大というところ

に対象を拡大してもらったり、テレワークもどのくらい進んだかな、なるべく進めておいてねというようなことは言ってあったんですけど、結果としてどのくらい進んだのかということもちょっと把握してみたいと思います。